

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100881		
法人名	医療法人静風会 大垣病院		
事業所名	グループホームHIPPO		
所在地	岐阜県大垣市室村町1丁目178番地		
自己評価作成日	平成28年7月15日	評価結果市町村受理日	平成28年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=detail_2015_022_kani=true&j_gyosyoCd=2172100881-00&PrCd=21&VerSi.onCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人静風会大垣病院が 母体であり、医療との連携、協力関係強い。特に平成25年より 大垣病院内に 岐阜県認知症疾患医療センターが設置され、認知症専門医はじめ専門スタッフよりの指導、協力体制も出来ている。利用者様、ご家族に安心して頂いている。地域の中においても 自治会、地域防災体を通じ 日頃から馴染みの関係が出来ている。非常時の際の連携も強い

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のできることが続けられるように掃除・縫い物・片付けなどを行い、一人一人の生きがいや楽しみにつなぐケアを実践している。縫い物が得意な利用者が多く、手縫いの作品を作り、居室やリビングなどで使ったり飾ったりしている。運営推進会議は、毎回テーマを決めて意見が出やすくしたり、利用者も参加したりすることで次回への目標を持てるようになり、発言の場にもなっている。事業所は2階の為、身体レベルが維持向上できる機会ととらえ、できるだけ外出できるように取り組んでいる。認知症カフェにも毎月参加し、歌を披露するなど楽しみな外出の機会にしている。階下の託児所で利用者も幼児と触れ合い、笑顔になる時もある。また、安心して職場復帰できた職員もおり、全職員で心温かなケアに取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設より12年、当初よりずっと地域との繋がりが多く、馴染みの関係が管理者、職員共に出来ており実践されている	誰もが目につく階段や入り口に、理念を大きな文字で掲示している。管理者と職員は、理念にある地域の人と交流ができていないか、利用者がゆったり暮らせているかなどを話し合いながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議が10年以上続いている。地域行事参加、防災訓練通じ、又地域の店(クリーニング、洋服直し、車椅子整備等)活用させて頂いており日常的に交流している	管理者は自治会役員会や防災会議に出席し、事業所のできる事を伝えている。散歩や買い物に近隣へ出かけたり、地域の祭りや認知症カフェに参加したり、住民を敬老会に招いたりするなど日頃から交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に認知症に関してのご相談を、地域の方から受けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には毎回入居者様が参加、テーマを決め意見を伺っている。地域住民、ご家族、行政の意見も伺いサービス向上に活かしている	メンバーの出席しやすい時間を聞き利用者も参加して開催し、テーマを決めて意見が出やすくしている。職員の対応や言葉使い、緊急時の地域との連携などについての意見が出てサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	権利擁護、保佐人利用の入居者様がおられ、連絡を密に取り協力関係を築いている。ケアマネ会議を通じたり最近では、認知症喫茶の関係で行政と更に繋がりました	管理者は市担当者に電話したり出向いたりして、情報交換しながら関係を築いている。防災対策や利用者個別の問題・医療保険との関係等について相談している。利用者に行方し書類の手続きをする場合もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当グループホームが2階にある為 転落防止の為、止む無く2階出入口を施錠している。身体拘束をしないケアを実践をしている(壁際3本柵廃止等)職員は、申し訳ないと思っている。	職員は、身体拘束の弊害を内部研修で確認し、言葉遣いにも注意している。事業所が2階の為、階下の託児所で幼児と触れ合ったり、玄関先のプランターで野菜の世話・散歩・買い物など外に出たりする機会をつくって日課としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、施設内研修を行い注意防止に努めている		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている居者様がおられる為、必要性を学び、関わり 活用できるよう支援出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時、改定時十分に説明させて頂き理解、納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご意見拝聴の他、夜のお茶会でも、入居者様の要望を伺い運営に反映している。面会時にはご家族、関係者よりアドバイスを頂ける様図っている	家族が訪問された時は、必ず声かけし意見や要望を聞いている。利用者には、夜間の寛げる時間などで尋ねている。訪問が少ない家族には、電話をかけたたり手紙で意見を求めたりして取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員と意見交換し、必要時法人に申し入れ、反映している	毎日の引継ぎ時など日常業務のなかで、管理者は意見を聞いている。担当者会議の場で意見が出て、レクリエーションに使用する物品や材料などの購入について検討する場合もある。出た意見はできるだけ反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は給与、賞与、介護職員処遇改善金の他有給、指定休日制度も有り やりがいをもって働けるよう務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員に法人、施設内の研修の他、今後更に、外部研修を受ける事が出来る様進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネには、勉強、交流の機会多くあり。職員同士は今年他施設に移動した職員3名おり(同グループの特養) お互い連絡し合い研鑽し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に安心して頂ける様、様子を伺い傾聴対応しながら 良い関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に安心して頂ける様、困っている事、要望等を伺い信頼関係を結べるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期利用時、先ずアセスメントを適確にとり、必要なサービス提供、この他重度認知症デイケア等利用し対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の長い人生の中で培ったものは、職員の方が勉強させて頂いているものが多い。共同生活のなかで 共に暮らしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人のご様子、思い等を報告、一緒に支えていく関係を築いている。ご家族の無い方には関係者と連携し 代わって支える事も有る		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同居人の中で以前、入院、入所していた病院、施設との連携もあり、支援できている。全く別の他施設に移られた方も自由に文通、電話が出来る様支援している	入居前に関わりがあった、施設の入所者や入院患者と馴染みがあり、行事や受診で出会い身近な場所で交流している。友人が面会時に、職員は再訪問をお願いしている。家族の協力で墓参や法要に行く人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様全員がたまたま女性という事もあり、お互い補い合い、自然に支えあっている。今後も見守り支援していく		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への見舞の他、他施設への紹介等適時相談、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴対応し、その都度情報交換を行い 希望、意向に沿えるよう努めている	日常会話や就寝前のゆったりした時間に思いを聞き、その言葉を記録している。利用者の生活が楽しみとなるよう個々に希望を聞いている。困難な場合は、家族に聞いたり毎日の生活のなかで表情や行動からも把握したりするよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかりと取り、馴染みの暮らし方、生、環境、サービス利用経過等把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の思い、心身状態、有する力等の現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にて ケアプランのモニタリング含め実行している。ご本人、ご家族の思い、関係者の意見取り入れ 現状に即した会議計画を立てている	本人や家族の希望を聞き、医師や看護師の意見も取り入れ介護計画を作成している。全職員で3ヶ月毎にモニタリングし目標の確認をしている。状態変化時はすぐ見直し家族に了解を求め、申し送りで伝達する時もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り時等、職員間で個別記録活用し、情報交換しながら介護計画の見直しに取り組んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの良さを活かし ご本人、ご家族の思いを大切に柔軟な支援やサービスの多機能化を図っている。何時もの外出、散歩、外食の他、夜の観劇会、イルミネーション見物等)		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の力を発揮し、される側から何かをする立場へーそれにより一層充実した暮らしを楽しんでいる(例・認知症喫茶にて合唱を披露)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の大垣病院と連携、ご本人、ご家族よりの信頼厚い。歯科、整形外科や皮膚科等地域の医療も活用し適切な医療を受ける事が出来る様支援している	利用者は協力医をかかりつけ医としている。必要に応じて近くの専門医も受診している。職員は利用者の健康状態を訪問看護師に報告し、協力医への受診は職員が付き添い、結果は家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	大垣病院より馴染みの訪問看護師が、毎週来所、お互い連携しながら支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の中で医療との協同常に有り、大垣市民病院、大垣徳洲会病院との信頼関係もある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、当事業所は、看取りをしない方針を説明して承して頂いている。ご本人、ご家族の思い受け、早い段階で医療と連携しながらチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の看取りをしない方針を説明している。夜間も協力医に連絡し指示をもらっている。重度化した場合は、利用者や家族の希望に合わせ、協力医も交えて話し合い、対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、急変や事故発生に備え、初期対応の訓練等 定期的な受け実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連携のもと、全職員が災害時等、入居者様が避難出来る様対応を身に付けている。水、食料等の備蓄も出来ている。管理者が地域の自主防災隊に参加、アドバイスする事もある	訓練時に梯子車で救助してもらえる助言が消防署からあった。避難方法を日頃から利用者と一緒に話し合い、非常持ち出し袋や防災頭巾を準備している。近隣の協力も得て行っているが、夜間想定訓練は実施していない。	事業所は2階であり、夜間は職員体制から一人になる。咄嗟の行動が落ち着いてできるように、夜間想定での訓練を実施して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関して、その都度 職員同士注意し合い、検討し合っている。止む無く肌を露出する清拭時は自室、トイレ等で行う等配慮し、言葉かけにも注意している。入室時、始業前、ケア前の挨拶等も出来ている	利用者を尊重するケアを日頃から心がけ、声かけのタイミングやトーンにも気をつけている。排泄・入浴時などプライバシーにも配慮し、トイレの扉を開けた時に見えないように、利用者手作りのカーテンを吊り下げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎食事のメニュー等、日常的にご本人の希望、思いを表現できるよう、自己決定出来る様図っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の少ない日(祝日)等は職員のペースになり勝ち。いつものお一人、お一人のペースを大切に、思いに沿って支援するよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在、たまたま全員女性の入居者様、パーマをかけたり、洋服を買いに出掛けたりとその人らしく、素敵に過ごせるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に応じ、献立の相談、食材の下ごしらえ、盛り付け、食後のかたづけ、食器拭き等、楽しく共にこなしている。干し柿、干し大根、ぼた餅、巻き寿司は入居者様のほうが上手である	利用者の希望で献立・味付け・調理法を変更している。利用者ができる事をし、職員も一緒に食し「味は、如何ですか」等話題を提供している。しかし、食事中に食材搬入の受け入れや洗い物をしたり、職員が立って動く様子があった。	職員と利用者が一緒になって、落ち着いた状態で楽しい食事時間となるような工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様全員、主治医より健康診断(とりわけ血液検査)の結果が良いと褒められる。母体の管理栄養士により管理。調達された食材を使用、摂取している。ミキサー食の方も居られる		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、各人違うが、毎食後、口腔内清潔保持に努め 肺炎予防に努めている		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居されるとすぐオムツはずしに取り組む。紙パンツから布パンツへ移行。お一人全介助の方が居られオムツ使用するが、ほぼ全員が布パンツである	排泄チェック表からパターンを把握し、利用者のしぐさや表情を読み取り、トイレ誘導するよう心がけている。現在トイレ排泄ができる人の状態が維持できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に便通の良いものを日常的に使用(イモ類、乳製品等)。又 主治医と相談し必要な方には便秘剤使用し運動にも取り組むなど予防対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在 風呂好きの方多く1日置きに入浴、午前風呂、拒否気味の方も週2回お入り頂いている。茶殻、みかんの皮、季節には菖蒲、ゆず等で変化をつけている。ゆったりと話しを聞いたり歌も出るほど。夜間入浴の希望者なし。	利用者のその日の希望や体調を聞いて入浴している。入浴したくない人には、同意されるような声掛けの工夫をしている。浴室では歌を歌い気分よく楽しんでいる人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜9時就床となっているが 音量小さくしてテレビ観賞も可なり。8時より職員とお茶会(ゆっくりと居間にてお茶を飲みながら昔話等をする)もあり安心して休まれるよう図っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員、薬に関して理解できている。精神薬服用の方も居られ必要時、主治医に報告相談、服薬支援と症状の変化、確認に務めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に張り合いのある毎日が過ごせるよう手芸、役割、嗜好品、楽しみ事等の援助をしている。ひば車を使いドライブ、外食等による気分転換も図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に安全な地域内散歩の他、希望に応じ買い物、喫茶店、図書館、外食も行く。毎年地域行事にも参加。今年はお家族と共に戸外へドライブや食事に行きたいと計画している。	利用者の希望で町並みドライブをしたり、季節の花を見に出掛けたりしている。車イスの人も一緒に外食に出かけている。散歩では手紙を投函し、買い物や通院も外出の機会としている。家族やボランティアに協力を依頼する時もある。	

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	適時、外食、買い物等、入居者様の力に応じお金を持ち使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話、手紙のやり取り等支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日全室窓開放、感染、悪臭予防に努めている。廊下には入居者様の作品を展示、ご家族にも感心され、喜ばれている。裁縫の得意な入居者様多く、トイレ、台所のカーテンも皆様の手作りである。共用空間にも配慮している	利用者と一緒に作った朝顔の折り紙を居間に飾り季節感を出している。書道やレイ作りなど利用者が楽しみながら暮らせる工夫をしている。居間なども清潔で気になる臭いはなく、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い共用空間であるが2~3人かけのソファがあり、そこで音楽を聴いたりお話ししたり、横になる方もいらっしゃる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の理解のもと、ご本人の希望を取り入れ気持ちよく過ごせる部屋となっている。手芸作品や植物を飾ったり、家族写真をおいたりされている。あまり飾らない方も居られ自由にされている	使い慣れた寝具や化粧品を使ってもらい、たんすの上に家族写真・書籍・帽子を置いている。自分で作ったレイや折り紙作品を飾り、その人らしい居室にしている。オムツ入れは、目立たないように職員が手作りしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階に当施設がありエレベーターは無い、職員見守りの中、手すりをにぎって階下へ移動したり昇ったり、何時の間にか丈夫になられた方多い廊下に手すりがないがその分職員が必要時介助している。トイレ上には鈴をつけ、その音で即職員が駆けつけている。		